「認知症の人が参加する研究倫理」に関する提言

活動開始：2017 年 8 月 31 日

趣旨：

日本臨床倫理学会は、意思決定能力が十分でない認知症の人の研究参加に関する意思決定プロセスが、倫理的に必ずしも適切でない現状を踏まえ、本ワーキンググループを組織し、提言を取りまとめることとしました。認知症の人を対象とする研究において、本人の意思決定を支援することを重視し、「治療」と「研究」との違いを念頭に置きながら、研究によってもたらされるベネフィットおよびリスクと、意思決定能力の低下との関係を検討します。

本ワーキンググループは、認知症の進展に伴って意思決定能力が次第に低下する人々について、研究参加に関する同意・代諾のあり方を考え、倫理的により適切な意思決定プロセスを実践し、認知症の人々の尊厳に配慮することを目的とします。既存の倫理指針を遵守するとともに、本人の自律と保護、意思決定能力の適切な評価、家族等による代諾のあり方、ならびに研究参加に伴うリスクとベネフィットの均衡について基本的な考え方とその根拠を示し、今後さらに議論すべき倫理的論点を明らかにすることを目指します。

構成員（五十音順、2017 年 8 月現在）：

＜臨床倫理学会担当執行部＞

＊新田　國夫（新田クリニック）
＊箕岡　真子（箕岡医院）
＊稲葉　一人（中京大学法科大学院）

＜メンバー＞

＊今井　幸充（医療法人社団翠会 和光病院）
＊大澤　誠（医療法人あづま会 大井戸診療所）
＊荻野　美恵子（国際医療福祉大学）
＊繁田　雅弘（東京慈恵会医科大学）
＊諏訪　さゆり（千葉大学大学院）
＊竹下　啓（東海大学）
＊宮島　俊彦（岡山大学／介護経営学会）
＊山路　憲夫（白梅学園大学）
＊山元　智穂（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院）



本ワーキンググループの成果は、『**認知症の人が参加する研究の倫理」に関する提言**』（へるす出版）として刊行されています。